

平成25年度 第1回富里市学校適正配置検討委員会会議録

- 1 期 日 平成25年6月20日(木)
開会 午後2時
閉会 午後4時
- 2 場 所 本庁舎3階第1会議室
- 3 出席委員
- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| 委員 | 長 | 吉 | 富 | 芳 | 正 |
| 副委員 | 長 | 荒 | 居 | 美 | 雄 |
| 委員 | 員 | 金 | 子 | 栄 | 子 |
| 委員 | 員 | 渡 | 邊 | | 薫 |
| 委員 | 員 | 相 | 京 | | 貢 |
| 委員 | 員 | 内 | 山 | 雅 | 広 |
| 委員 | 員 | 高 | 橋 | 啓 | 子 |
| 委員 | 員 | 石 | 槁 | 久 | 和 |
| 委員 | 員 | 豊 | 田 | 泰 | 司 |
| 委員 | 員 | 田 | 口 | | 明 |
- 4 出席職員
- | | |
|-------------|---------|
| 教 育 長 | 國 本 與 一 |
| 教 育 次 長 | 小 野 祐一郎 |
| 教 育 総 務 課 長 | 高 須 利 幸 |
| 学 校 教 育 課 長 | 滝 口 次 郎 |
- 5 事務局職員 教育総務課課長補佐 中 津 義 孝

1 開会宣言

教育次長 第1回富里市学校適正配置検討委員会を開会

2 委嘱状の交付

3 教育長あいさつ

第1回の学校適正配置会議に御出席いただきありがとうございます。

委員の皆様には、お忙しい中この委員会の委員をお引受けいただき感謝申し上げます。

第1回の会議に入るに先立ち、皆様からご意見をいただき、まとめてまいりたい事項などについて、簡単にお話させていただきたいと思います。

皆様ご存知のように全国的に少子高齢化が進むなか、富里市においても平成2年度の児童・生徒数6,731人をピークに少子化の波が押し寄せており、教育環境の公平性を保つこと、学校運営上の課題等も指摘されております。

このようななかで、学校規模の適正化とともに適正配置について早急に検討し、子どもたちを育む学びの空間であり、教育の充実を図るための基盤ともなる学校のより良い教育環境の実現に向けて取り組むことが緊急かつ重要な課題のひとつとなっています。

子どもたちを中心に据えた学校教育を推進し、学校の規模にかかる様々な問題や課題を克服するとともに、これからの新しい教育の流れに積極的に対応していくためには、学校規模の適正化を図り、適正配置することはきわめて重要であり、将来を見すえた富里教育の充実に向けて、取り組んでいく必要があります。

今回のこの委員会につきましては、偶数月の開催で2月までの5回を予定させていただいております。5回で何を協議していただくかということでございますが、1回目に富里市の現状等をご説明申し上げさせていただき、2回目に富里市における学校の適正規模、適正配置等をご協議いただきたいと思いますと考えております。

3回目からは過小規模校も存在することからその学校の進むべき方向についてご意見等をいただき、4回目で方向性をまとめ、2月の第5回目で考え方をまとめていただき、教育委員会に答申していただくことを考えております。なにぶん5回という限られた回数でございますので、細かなところまでご協議していただくことは困難であろうと思われまますので、富里市における学校の適正配置の姿はお示しいただくこととなるとは考えておりますが、個々の学校の就学区域等までは考えておりません。将来的には、お示しいただいた学校適正配置の姿を目指して教育環境を整えていくこととなります。

なお、前提条件につきましては前段でも触れましたように回数も限られておりますので、中学校については当分の間、3中学校体制で維持していきたいと考えております。

皆様の忌憚のないご意見をいただき、子どもたちの教育環境の整備にまい進してまいりたいと存じますので、よろしく申し上げます。

4 委員紹介

5 教育委員会職員紹介

6 委員長及び副委員長の選出

委員長に吉富芳正委員，副委員長に荒居美雄委員を選出

7 諮問について

1 諮問事項

富里市立学校の適正配置について

① 3中学校区体制の維持について

② 複式学級の解消，学校統合の必要性について

③ 南部地域の小学校適正配置について

2 諮問理由

富里市の児童・生徒数は、平成2年度の6,731人をピークに平成25年度は3,688人（3,043人，45パーセントの減少）となっております。

このようななか、平成25年度から学級の複式化（複数学年で1クラスにする学級編制）が現れており、教育委員会においては、教育の機会均等が保てないものと考えますので、学校規模の適正化、適正配置について早急に検討し、さらなる教育環境の充実に努めてまいりたいと考えております。

つきましては、貴委員会において議論を重ねていただき学校の適正配置について今後の方向性を導き出すことができるよう諮問いたします。

8 議事

(1) 会議の進め方について

委員長 会議の開催スケジュールについて事務局から説明を求める。

教育総務課長 委員会開催のスケジュール、内容について、会議の実施回数は、本日を含めて5回を予定する。本日、第1回目の会議は、富里市立小・中学校の現状について説明し、各委員から意見交換等をいただく。

第2回目8月の会議は、学校の適正規模の基本的考え方について、児童・生徒数の将来推計、適正規模、過小規模校のメリット・デメリットを説明し、各委員から意見交換等をいただく。

第3回目10月は、適正配置の検討を要する小・中学校について、統合計画案の提出、統合の進め方・注意事項の確認など、各委員から意見交換等をいただく。

第4回目12月は、適正配置全体計画について、計画案の協議、各委員から意見交換等をいただく。

第5回目2月は、(仮称)富里市立小・中学校の適正配置についての答申内容について意見交換、答申案の承認をいただく。

委員長 スケジュールについて何か御質問はあるか。(質疑なし)

次に会議の公開について事務局の説明を求める。

教育総務課長 会議録を市のホームページに登載し公開することについて、会議の傍聴の取り扱いについてどうするのか御協議いただきたい。

委員長 この委員会の設置については、既に公表をしているか。

教育総務課長 あらかじめこの期日に開催するという公表はしていない。

委員長 会議録を作成して、ホームページ上で公開することよろしいか。

(全員賛成) 傍聴の希望があった場合にどのように対応するかについて、不規則発言があった場合は退席させることは前提条件であり、誠実に聞いてくださる場合は、傍聴の希望に沿うこととしてよろしいか。

副委員長 傍聴人の人数制限を考えたほうがよいのではないか。会議場所の広さにもよるが委員10名で会議を行うところに傍聴人が10人以上いたら、たとえ静かにされていても無言の圧力がかかってくると思われる。会議を重ねるごとに傍聴人が増えてくることが考えられるので傍聴人の人数が気になる。

教育総務課長 傍聴人の数については、会場の関係もあるので5人ぐらいであろうと考える。また、団体に傍聴に来た場合は代表者の方に入ってもらうなどで対応するものとする。

委員長 自由闊達に議論することが保障される範囲内で傍聴を認めるということよろしいか。(全員賛成)

(2) 市立小中学校の現状について

委員長 事務局の説明を求める。

教育総務課長 南部地区を中心として富里南小学校，そのほかの地区は富里小学校の2校で始まり，その後，富里南小学校から浩養小学校，洗心小学校が分離，独立した。

富里小学校からは富里第一小学校が分離，独立，このころの日吉倉地区は成田市の小中学校に特例として就学していた時期があったが，日吉台地区の開発により日吉台小学校が創設された後，日吉倉地区は日吉台小学校の学区として就学した。児童の増加により根木名小学校，七栄小学校が分離，独立し，現在の小学校区は8学区となった。

中学校区は3学区であり，南部地区として富里南小，浩養小，洗心小で富里南中学校区を形成，中部地区として富里小，富里第一小，根木名小，七栄小で富里中学校区を形成，北部地区の日吉台は，1小1中として北中学校区を形成している。教育委員会としては，現在の中学校区についてはバランスがよく，このまま3中学校として扱ってまいりたいと考えている。

次に平成元年から平成25年度までの幼稚園の園児，小中学校の児童，生徒数の推移の資料について説明する。注目していただきたいのは，小学校の児童数は平成2年度の4,390人をピークとして，減り続け，平成25年度は，2,458人で平成2年度から約2,000人減少している。

中学校の生徒についても平成8年度の2,207人をピークとして減り続け，平成25年度は1,230人という現状である。

小学校別に児童数の推移をみると，富里小と七栄小だけが横ばい若しくは微増となっており，ほかの小学校は減少している。

次に，本年5月1日現在の各小中学校の学級編成数と児童生徒数の状況について説明する。富里小は623人20クラス，富里第一小は125人6クラス，富里南小は436人15クラス，浩養小は57人6クラス，洗心小は46人5クラス，日吉台小は503人18クラス，根木名小は230人10クラス，七栄小は381人13クラスである。2つの学年を併せて16人以下になると，先生が1人で2学年を担当する複式学級になり，洗心小学校の2学年と3学年で複式学級となっている。

富里中は671人19クラス，北中は251人8クラス，富里南中は283人9クラスである。

文部科学省では全国的に12～18学級が適正な規模であると示されている。

委員長 富里小と七栄小の児童が減少しない要因は何か。

教育総務課長 大規模な開発ではないが家が建ってきているためであろう。

委員 推計はどのくらい先までしているか。

教育総務課長 平成35年度まで推計をしている。住民基本台帳を基に乳児が小学校に入学する平成30年度までは実数に近い数字で推計、その後は出生率等により平成35年度まで推計している。次回の会議には資料として提示する。

委員 住んでいる学区と違う小中学校へ通うことがあるのか。

学校教育課長 いわゆる指定校変更というもので、住んでいる学区とは別の学校に通学している場合がある。理由としては、学童保育に通う必要があること、普段は自宅ではなく祖父母宅で児童をみていること、病気の関係で距離的に近い学校に行く必要があるなどの要件で指定校変更を認めている。洗心小学校については、小規模の学校の良さを求められて小規模特認校として市内全域から就学を認めている。

委員 洗心小には他の就学区から通学する方は何人くらいいるのか。

学校教育課長 様々な事情で洗心小学校区以外から通う方が16名いる。小規模特認校による就学者は3名である。

委員長 各委員から御質問があればお願いしたい。

委員 洗心小学校の複式学級について2年生、3年生、5年生、6年生が対象となっているが、5・6年生は配置教員を活用することで複式学級を解消している。2・3年生の授業は1つの教室で実際にどのように行われているのか。

学校教育課長 洗心小の5・6年生に配置した教員は、県費負担教員であり正規職員のため、学級を担任することが可能となっている。そのため1つの教室に1学年となっている。2・3年生は、2年生に正規職員を充て、3年生に市の非常勤講師1人を置いているが、講師は学級担任となることができないため、2・3年生で1クラスとなっている。学習の内容により学年ごとに指導する必要があるときは、1つの教室の中に2人の教師がいて前と後ろに分かれて指導したり、学年で教室を分けて、2年生の正規職員の指示を元に3年生を教えるなど、よりよいものを目指し試行錯誤して指導している。

教育総務課長 学校施設の耐震化状況について説明する。IS値を0.7以上に補強する必要のある体育館は、富里小0.27、富里南小0.26、浩養小0.12、洗心小0.2であったが、すべて耐震補強を実施した。8小学校3中学校の体育館は避難所として指定されている。

次に耐震補強をする必要のある校舎は、富里南小と洗心小であり、富里

南小は今年の夏休みに工事を行い、洗心小は、来年度に工事を計画している。

そのほか今年度は、日吉台小の体育館天井板の撤去、強化ガラスの設置等を行う。次には、富里南小校舎が40年経過するなど古くなってきた校舎があり、雨漏りなどの修繕を行っていく必要がある。

また、昨年度は各教室に扇風機を2台ずつ設置、今年度は空調設備が入っていない図書室等に設置するところであるが、要望のある普通教室の空調設備の設置については大規模改修のときにあわせて検討していく。

委員長 これまでの事務局の説明に対し質問はあるか。（質疑なし）

（3）その他について

委員長 本日は第1回の会議であるので、これからの教育についての思いなど幅広い話題から、これからの議論のために事務局に求めたい資料などまで、どんなことでもよいので委員一人ひとりの発言をお願いしたい。

委員 1年生から4年生まで19人という分校に着任した経験があり、教諭3人の体制であった。家庭教師のようにマンツーマンの指導はできるが、人数が少ないためドッジボールができず、本校の運動会に参加した際には、子どもたちが萎縮している様子が見られた。社会性について、どこまで育てられたのかと考える。富里市の教育のこれからを考え、改めて勉強をさせていただきたいと思う。

委員 近隣の学校の統廃合の現状について、栄町では平成27年度に6小学校2中学校を4小学校1中学校に、銚子市では今年の3月に市立第八中学校が市立第四中学校に統合され、市立銚子中学校になるなど具体的に動いている。情報を提供していただきたい。大規模なアパートが多く、小学生が増えたなど思ったら居なくなってしまうという印象を受けている。

委員 洗心小の特認校制度による就学募集について広報紙に掲載があり、個別指導補助員に聞いたところ、たくさんの人数の中では勉強が苦手な子どもも受け入れてくれるので、自宅から洗心小まで離れていても通学する子どもたちがいるのだなと思った。小規模校の良い面を考えて、多人数ではなじめない子どもであるとか不登校などメンタルを大切に扱う子どもたちの教育に活用できたらよいと思う。どういう子どもたちが応募してくるのか知りたいと思う。

副委員長 スモールスクールの意義について、大規模校に就学した保護者や本人は小規模校の良さをわからず、逆もまたわからない。（小規模校に就学した保護者や本人は大規模校の良さをわからず）、小規模校の良さ

はかなりある。しかし、委員が発言していたように、郡の大会などに選手を派遣できない、リレーのメンバーが組めないという現状がスモールスクールにはある。

過去にソフトボール大会などがあったときに4年生ぐらいから6年生と一緒にやらないといけないということが往々にしてあった。大規模校であろうが小規模校であろうが、平等に教育を受けることができるようにするのが教育委員会の仕事であると思っている。

競争力がなくなるような状態も問題になるのではないかと、洗心小の在り方検討協議会でもこういった協議をしていると思う。これから2回、3回の会議を開くにあたって、そういう意見も我々に聞かせていただきたい。

他市の動向として統合の動きがあるのはわかっているが、その流れがあるからうちもそうするというのは簡単ではあるけれど、もう一度教育の面から考えなければいけない。小規模化した洗心小だけでなく、何年か前に立派な校舎を建てた浩養小も小規模化している。意見交換をみんなですていけたらよいと思う。

委員 洗心小は、人数として50名を下回ったのでミニバス、ドッジボールをやろうすると同じ学年ですることができない。しかし、6年生がリーダーになって縦割りで校内活動を行っている。6年生は下級生に対し、この人は叱るより褒めたほうがいいのだと、下級生を良く見ている。そういう場を与えられて6年生が育ったのだと思う。

洗心小には学童保育がない。学童保育がないので芝山小に入れたいという声も聞いた。同じ二区でも芝山小に近いお宅は芝山小に行ってしまう。

小規模校特認校の学区は市内全体であるとされ、保護者の責任で送り迎えをするようになっているが、共働きが多いので朝は送っても3時4時に迎えに来るのは現実的に無理である。学童保育など5時30分6時ぐらいまでの預かりがあれば、洗心小に登校しようかというケースも出てくるのではないかと。小規模特認校制度で保護者の責任で登下校することは富里市だけではないらしいのだが、保護者が病気などで送迎に支障が出たため元の小学校に戻った。送迎を親の負担だけではなく、市内全体が学区であるのならば、昔、富里中であったスクールバスを行政的にやってほしいという思いがある。このような意見が洗心小在り方検討協議会で出ている。

委員 日吉台地区の人口は約1万人、市の人口の5分の1がいる学区であるが、生徒数が半分以下になりびっくりしている。2世代3世代住宅は、ほとんどないので急な高齢化が迫ってきている。減る一方ではないか。

村時代には日本一広いという記憶があり、改めて学区をみると北部から中央、南部にかけて広い区域であると思う。あおぞら保育園ができ便利に

なったが、共稼ぎの方、母子、父子家庭が多いので子どもを預かる施設が全国的に求められている。昭和40年代ごろは日吉倉地区の90数パーセントが成田市に越境入学していたが、いじめとかひどい差別を受けたと聞いている。地元には学校があるのは大事なことだと思う。今後、児童生徒が減る前提で話をしていくのでおおよそわかる話ではあるが、少数でもしっかり考えていきたい。

委員 行政側で洗心や浩養等の地区は建築を規制している。そういう根本的なところにも子どもが減る前提、少子高齢化となる前提がある。もし改善できるきっかけがあれば、世代が増えて子どもが増えていく方向に持っていけることができるのかも。ただ、すぐには無理なので現状を見ながら対処していくしかないと思うが、そういう可能性が探れるものであればそういう検討もしていきたい。

委員 自分が富里中に入学したころは、富里南中がなかった。入学してどうしても目立つのは洗心小と浩養小の子、あそこの2人が浩養小といった眼で見られた。小学校の児童数が少ないのであったら、統合しても少ない人数であるので、そういったことは無くなるのではないかと思う。

委員 自分の子どもが富里南小から富里南中に入学した後、洗心小、浩養小の少人数で教わっている子どもと1学年4クラスの子どもの差がとて出たように感じた。親の考えで少人数校に通わせたほうが将来的に子どものためになるのではと思ったことがあった。実際にどうなのか。

副委員長 スモールスクールというのは年によってすごく揃うときがある。また、人数が少ないだけでなく、洗心小学校は、自転車の交通ルール競技に毎年のように千葉県大会に出ている。小規模校はそういう教育ができる。

洗心小が富里市の市民体育大会で優勝したことがあった。浩養小もそういうことがあった。相京校長先生は、よくご存知であると思うが良いときと大変なときとがある。今、大学1年生の上位8～9人ぐらいは浩養小の出身であった。

ただ学校の成績だけで人間が形成されるかというところではなく、協調性など、さまざまな経験を通して一つの人間ができる。人数が多い学校なりに経験することもあり、一概に小規模校が良いとはいえない。

委員長 これから個別に話をしていくときに、学力の話題などがでてくる。この場の議論のためには、風評ではなく、根拠のある話について突っ込んで話を進めよう。

委員 佐倉市弥富小も特認校であるので現在の状況、北総教育事務所スモー

ルスクール担当に資料を求めるとよいのではないか。

副委員長 向台幼稚園で預かり保育を行っている。始めた当時は募集人数を上回っていたが現在は何人か。年間を通した契約と期限付きの契約があって、年間契約をしておかないと利用したいときに連れて行けないとして、実際に利用する人数よりも契約上の人数が多く、何年か前には向台幼稚園の預かり保育が機能しないことがあったと思う。

学校教育課長 今年度は10名近くいる。

副委員長 以前に学童保育を行うことについて検討委員会を組織した。

3～4年前に浩養小，七栄小，根木名小の学童保育ができていると思う。残っているのは富里小，洗心小ぐらいであろうが，作るときには本当に機能するか検討していかなければならないと思う。

委員 学童保育の件で5年以上前だろうか，洗心小でアンケートを取ったときは希望者が0であった。浩養小のときは，20数人の希望があったが実際は2～3人の利用であった。洗心小学校区は農村地帯の二区とハニワ台団地である。農家は親がいて揃っているイメージであるが共働きであり学童の必要性はある。

委員 10年近く前，根木名小で学童保育の多数の要望があり，実際に20畳ほどの快適な建物が出来たが利用者は3人であった。そんな利用状況が2，3年続き，今では20数名の登録である。第一小学校の学童保育がなかったころは，夏季休暇中などに根木名小学童保育を利用していた。

委員長 個別具体的なことに眼を向けて事実から出発して議論するということを大切にす。それと同時に富里市の学校適正配置がテーマであるので本市の教育に関わることを全体をみる。その際には中長期的なことを考える。学校施設は40年経っても使用しているので，少なくとも20年先ぐらいまではみなくてはいけないかなと思う。

子どものことを第一に考え，多角的にいろいろな要素を勘案していかなければならないだろう。どうしても既存の現状を元に我々の感覚は動いているので，富里小の子，七栄小の子，洗心小の子，浩養小の子という眼で見がちであるが，全体として富里の子どもという視点を持つこともまた大事である。

次回，8月の会議については，8月23日（金）14時を予定する。

以上で会議を終了する。